

全学での検討が必要な課題に対する検討結果一覧

1. 教育課程に関すること

No	全学での検討が必要な課題	関連する点 検・評価の項	点検を行った 全学組織・部局名	対応予定
1	教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当しているか。（認証評価別紙様式6－4－4の結果は85％となっているが、教育学部の講師率は四国四大学に比べて高い比率となっている。鳴門5.6％、香川1.2％、愛媛4.8％、高知25.3％）	1－1－9	教育学部	全学の方針で採用、昇任は原則として停止しており、例外的に採用する場合でも若手の教員の採用を推進しているため、直ちに対応することは難しい。教育上主要と認める授業科目のうち教授・准教授が担当するものの割合が著しくならないよう、引き続き注視していく。
2	教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当しているかについて、シラバスへの「教授」「准教授」などの職階の記入については全学での対応をお願いしたい。	1－1－9	理工学部、理学専攻、応用自然科学専攻	シラバスへの「教授」「准教授」などの職階の記入が全学で対応できるかという点も含めて、全学教育機構において検討を行う。
3	就職先からの意見聴取について、実施方法や頻度等を検討する。	1－2－9	全学教育機構	全学教育機構のもと、就職先からの意見聴取について、実施方法や頻度等を検討する。
4	同一企業に対し、各学部が五月雨式に卒業生調査を実施することがないように、全学的に調査をして欲しい。	1－1－2 8	地域協働学部	
5	就職先へのアンケートについて、卒業生からの承諾が得られなかったと思われるため、対応を検討して欲しい。	1－1－2 8	TSP（学部）	

2. 学生支援に関すること

No	全学での検討が必要な課題	関連する点 検・評価の項	点検を行った 全学組織・部局名	対応予定
1	留学生への学生支援を始めとした各種情報提供の迅速化・充実のため、英語版のWebサイトのリニューアル及び更新体制の見直しが必要である。	2-2-1～8	全学教育機構	理事（地域・国際・広報・I R担当）を中心に関係部局において必要な英語版Webサイトについて検討する。
2	生活支援等に関する相談・助言体制が確認できる資料の英語版が確認できる本学Webサイト	2-1-1	黒潮圏総合科学専攻	
3	健康に関する相談・助言体制が確認できる資料の英語版が確認できる本学Webサイト	2-1-2	黒潮圏総合科学専攻	
4	就職等進路に関する相談・助言体制が確認できる資料の英語版が確認できる本学Webサイト	2-1-3	黒潮圏総合科学専攻	
5	各種ハラスメント等の相談体制や対策方法が確認できる資料の英語版が確認できる本学Webサイト	2-1-4	黒潮圏総合科学専攻	
6	学生の部活動や自治会活動等への支援の内容が確認できる資料の英語版が確認できる本学Webサイト	2-1-5	黒潮圏総合科学専攻	
7	障害のある学生その他特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への支援に関する部局における体制が確認できる資料の英語版が確認できる本学Webサイト	2-1-6	黒潮圏総合科学専攻	
8	学生の多様化に対応するため、キャンパスのユニバーサルデザイン化、障害のある学生への支援組織及び支援事業の充実が必要である。	2-2-6	全学教育機構	理事（教育担当）を中心に具体的な課題について検討を行う。
9	生活支援等に関する総合的相談・助言については、部局個々で行うのではなく、全学的な学生支援委員会で行うことが適当である。	2-1-1	理工学部、理学専攻、応用自然科学専攻	課題として上がっている事項は全学において十分に行われている。 各部局での取組が特段必要ないのであればモニタリング等の観点から削除するのが適当であるため、次年度実施の際の対応について全学教育機構とI R・評価機構で検討を行う。
10	健康に関する相談・助言については、部局個々で行うのではなく、専門性を擁するので、保健管理センターを中心に全学的な支援体制をとる方が良い。	2-1-2	理工学部、理学専攻、応用自然科学専攻	
11	学生の部活動や自治会活動等が円滑に行われるよう必要な支援について、全学において学生の自治活動や部活動への援助は行われていると思うが、教育学部・専攻において組織的な支援を行う人的余裕はない。	2-1-5	教育学部、教育学専攻	
12	部局において学生に対する経済面での援助を行っているかについて、全学において奨学金制度は整備されていると思うが、教育学部・専攻において財政的余裕はない。	2-1-7	教育学部、教育学専攻	
13	部局における自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているかについて、全学において自主的な学習環境は整備されていると思うが、ピアノレッスン室以外、教育学部・専攻において施設の余裕はない。	2-1-8	教育学部、教育学専攻	

3. 学生受入に関すること

No	全学での検討が必要な課題	関連する点 検・評価の項	点検を行った 全学組織・部局名	対応予定
1	令和3年度入試に向けて、面接・小論文等の評価基準の改善を推進し、学生受入の適切な実施に取り組む。	3-2-2	入試企画実施機構	自己点検・評価シートに記載されている改善計画（アドミッション・ポリシー及び選抜方法の評価項目との整合性を考慮した改善）を入試企画実施機構において確実に推進していただく。

5. 国際連携に関すること

No	全学での検討が必要な課題	関連する点 検・評価の項	点検を行った 全学組織・部局名	対応予定
1	留学生に対する学習支援について、部局における体制が整備されているかについて、全学の国際連携推進センターが行っていると思うが、学部・専攻として特に行っていることはないので、全学と学部との連携を明確化させることが必要。	5-1-1	教育学部、教育学専攻	課題としてあげられている取組は全学で十分に実施されている。国際連携推進センターの取組が十分に部局に伝わっていないということも考えられるので、センターの会議等を通じて各学部で国際連携の取組を周知していく。
2	留学生への生活支援等について、部局における体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っているかについては、国際連携推進センターが行っていると思うが、学部・専攻としてアドバイザー制度以外に特に行っていることはないので、全学と学部との連携を明確化させることが必要。	5-1-2	教育学部、教育学専攻	
3	留学生に対する学習支援については、学部・専攻としての取り組みというより、全学的な取り組みが必要。学部・専攻としては、アドバイザー教員制度で対応できている。	5-1-1	理工学部、理学専攻、応用自然科学専攻	
4	留学生への生活支援等については、学部・専攻としての取り組みというより、全学的な取り組みが必要。学部・専攻としては、アドバイザー教員制度で対応できている。	5-1-2	理工学部、理学専攻、応用自然科学専攻	